

## 導入レポート3

### (株)キョウユウ技研

# 主要機械のネットワーク管理と 高速レーザー加工機の導入で生産性を高める

(株)キョウユウ技研（長野県上伊那郡箕輪町）は一品物や少量加工を持ち味とする板金加工会社。TIG溶接など手作業による細やかな技術に長ける一方、社内の主要機械をネットワークで結び、生産の進捗状況をリアルタイムに把握するなど、IT、IoT活用にも取り組む。昨年8月には自動段取り機能を備えた超高速のファイバーレーザー加工機を導入（写真1）。ブランク工程の生産性が大幅に向上し、短納期生産でも強みを発揮し始めている。顧客の信頼は厚く、コロナ禍でも黒字を計上する伸び盛りの会社だ。

## 強みは対応力

会社設立は1992年で、装置メーカーの板金部門で経験を積んだ竹山春夫氏（現会長）が仲間三人とともに立ち上げた。数物を好む板金加工会社が多い中、同社はそれらとは一線を画し、創業時から装置メーカーの専用機に使う機械部品や付属装置など、一品物の加工に力を傾けた。「一品物や少量生産は手間がかかるため板金業界では敬遠

されがちですが、それ自体に付加価値があり、利幅も大きいので、今もその方針に変わりはありません。逆にうちは、量産ものは不得手です」と、2019年に二代目社長に就任した柴直樹氏は明快に話す（写真2）。

実は、柴氏は創業メンバーで経理担当であった女性の子息であり、中学生の頃から休日になると母親の勤務する同社の仕事を手伝っていたという。それだけに社業には強い思い入れがあり、リーマンショック後に経営がピンチに陥り社員間に動揺が広がったときも、竹山氏と2人で経営の立て直しに奔走した。

現在の顧客件数は、少量の取引まで含めると約100社。取扱い分野は射出成形機の周辺装置、粉碎機械、半導体検査装置、医療用機器、建築金物、食品機械の筐体や部品など多岐に渡る（写真3）。材料の板厚は0.2mmの薄板から、鉄であれば22mm、ステンレスなら12mmまでの厚板加工が可能だ（写真4）。顧客から最も高い評価を得ているのはTIG溶接（写真5）などの手作業の仕事だが、レーザー加工機やレーザータレットパンチ

## 会社概要

会社名	(株)キョウユウ技研
代表者	代表取締役社長 柴 直樹
群馬本社	〒399-4601 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪 15620-1
TEL	0265-79-0601
設立	1992年
従業員数	35人
資本金	1000万円



写真1 ファイバーレーザー加工機「REGIUS-3015AJ」